

悲しみに寄り添える人になりたい

岐阜市立岩野田中学校 3年
有間水紅(ありま みく)

太平洋戦争は1945年8月15日に終結し、日本人およそ310万人が亡くなりました。これが日本が参加した、太平洋戦争の基本的な情報です。私はあの時曾祖母の話の聞くまで、戦争を身近に感じる事ができていませんでした。

今から2年前、私がまだ小学生だった頃、曾祖母と近所の神社に花見に行きました。神社には大きくて立派な山桜が一本、どっしりと根を下ろしていました。その桜の近くにはいくつかの墓がありました。「これは誰の墓なの？」すると曾祖母は少し暗い表情になって私に教えてくれました。「これは、戦争で亡くなった人達の墓で、この人達の遺骨は、まだ見つかっていない。だから、この人達はふるさとに帰ってくる事ができていない。この墓の中には曾祖母の叔父のものもある。」と。

曾祖母の叔父は若くして戦争に駆り出されて命を落としたそうです。大好きだった叔父にはもっと長く生きて欲しかった。そう話す曾祖母は、はるか遠いところを見ているようでした。

それから私達は、その墓参りをしました。戦争のことを思い出した曾祖母と、そのことを聞いた私は、花見をしに来たはずだったのに、とても辛い気持ちになりました。

それから2年経った今年、私はあの日の曾祖母と同じ目をした人に出会いました。テレビニュースに映るウクライナの人々でした。テレビ局のカメラだけでなく、私たちが普段利用している SNS で戦争の現状を発信したり、支援を求める姿に胸が痛みました。戦争が何かも分からず、避難する子供の表情、家族と離れて国を守るために必死に戦う兵士の姿には、会ったこともない曾祖母の叔父の姿を重ねてしまいます。

なぜ戦争が繰り返されるのか、たくさんの命が消えていくニュースを聞くたびに何もできない自分が悔しくてなりません。

私は、この二つの出来事から、改めて今、世界で起きていることを考えてみました。私が手にしたのはこれです。SDGsを紹介するリーフレットです。SDGsは2015年、世界中の人々が話し合い、2030年までに達成しようと定めた具体的な目標です。その中にウクライナと同じ世界の人々の苦しい現実がありました。紛争はウクライナだけでなく、他の地域でも起きています。避難民の受け入れや食料など人道的な支援を求めている国は、多くあります。世界地図で支援を求める国を赤色で示すと、全体のおよそ半分が赤く染まります。特に、アフリカや南アメリカは全て悲しい赤です。日本の豊かな生活は世界中から集めた資源や食料から成り立っています。私の生活も、この国々と繋がっています。

SDGsのキーワードは「誰一人取り残さない」です。誰もが幸せだと思える世界になるには気の遠くなるような時間が必要でしょう。でもあきらめなければ、いつかきっと達成できるはずです。

曾祖母の話、今の世界の現実を知った私は、誰よりも悲しみや苦しい思いを抱えている人に寄り添える人になりたいと思いました。そのことを忘れては平和な世界は実現できないと思います。

9月、私は修学旅行で広島を訪問します。そこには原爆で亡くなった30万人の人々の声なき声があります。私は何よりも戦争や争いのない世界を望みます。誰よりも平和を望む人々の声に耳を傾けながら、自分ができるところを探そうと思います。